

中小企業景況情報

本情報は、県内12商工会で実施した中小企業景況調査の集計結果(179企業)をまとめた

小売業

発行・長崎県商工会連合会
長崎市桜町4-1
長崎商工会館8階
問い合わせ先 TEL 095(824)5413

〔主要景況項目の動向〕

期 主要項目	2021年 4月～6月	7月～9月	10月～12月	2022年 1月～3月	4月～6月	7月～9月 (見通し)
売上額						
採算						
資金繰り						
業況の動向						

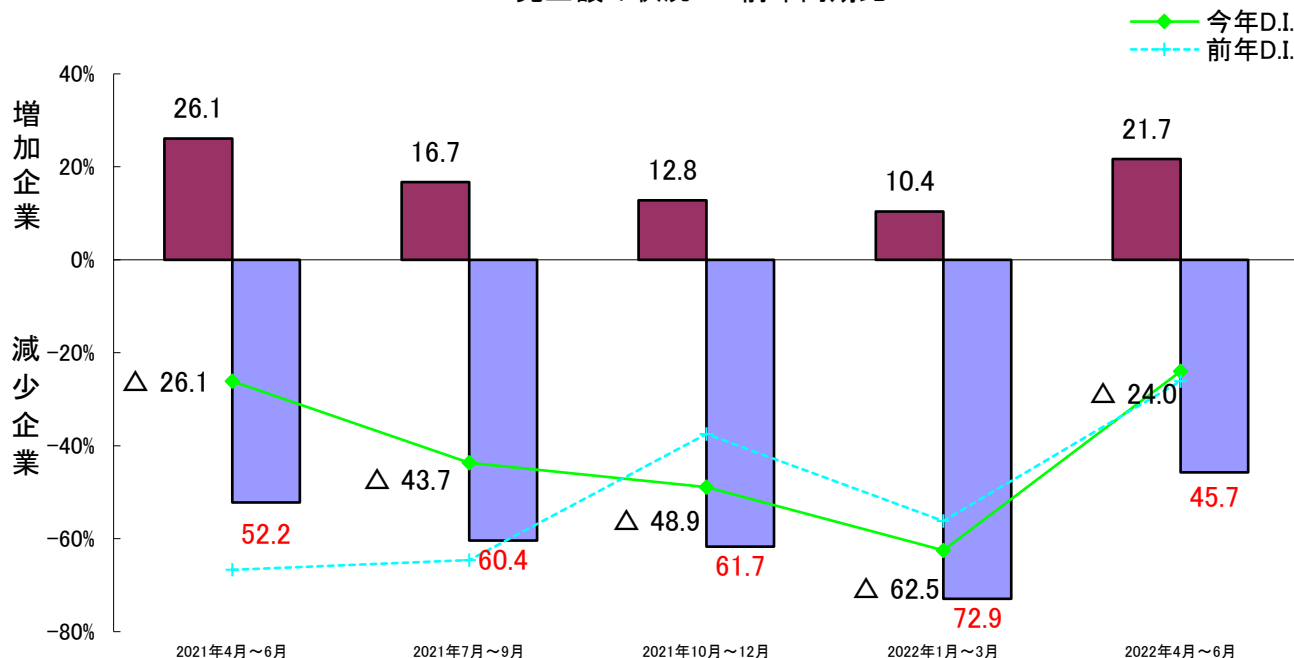
晴 D・I 50.1～100
 晴時々曇 D・I 20.1～50
 曇 D・I 20～△20
 曇時々雨 D・I △20.1～△50
 雨 D・I △50.1～△100

〔調査対象企業のコメント〕

製造業	<ul style="list-style-type: none"> 原材料の価格上昇に伴い、利益の確保が難しくなっている。価格に転嫁するタイミングが悩ましい。【量製造業】 原材料価格、資材価格の上昇が止まらない。一度の値上げでは収まらず、2度・3度と値上げされている物もある。【野菜漬物製造業】 原材料・経費の値上がりは止まるところを知らない。HACCP対応・働き方改革など行政の言う通りに実行していたら経費倒れてしまうのではないかと利益追求できない状態にある。【めん類製造業】 商品の引き合いは増加傾向にあるが、使用包材等の値上がりが平行して続いているため、なかなか売り上げ増にはならず、何らかの対応策を模索中である。【その他の水産食料品製造業】 とにかく材料の価格が高騰して、外国からの材料が手に入らない。先の見通しが立たない。【建築用木製組立材料製造業】
建設業	<ul style="list-style-type: none"> 恐竜博物館等の投資が地域を牽引しているものの、そのチャンスに上手く乗りきれずにいるもどかしさがある。変化に対応してこの事業であるものの、地域人口減少による購買力低下は企業の体力を消耗していくものとする。【その他の各種商品小売業】 材料費が高騰している中、最近では電力料金の値上げの話も出てきて、今後が心配。【鉄骨工事業】 新年度に入り、公共工事も河川の災害復旧工事、公共施設の管繕工事等官公庁の発注が多くなってきた。しかし、材料資材の高騰と従業員の高齢化で人手不足になり対応が難しい。将来を踏まえ、根本的な対策を考えていかなければならない。【一般土木建築工事業】 他の業種と同じく建設資材が10%前後上昇し、見積金額も高くなるため工事の受注に影響が出始めている。リフォームや新築の案件も数件あるが、銀行からの融資が厳しくなっていることが多いと感じる。【一般土木建築工事業】
小売業	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で全ての規制が解された4～5月だったが、3密回避が求められ、飲食も4名までとなったため、外食のみの人口は限られた。消費は落ち込むばかりで、回復の兆しが見えない。【酒小売業】 コロナ禍による売上減から比べると、多少、回復傾向にあったと思う。しかし、食品類の値上げ、コスト増により利益は減った。どうにかして採算がとれる経営方法を見つけないといけない。【各種食料品小売業】 大幅な仕入れ単価の上昇が続いている。国が補助金で対応してくれていることが、せめてもの救いであるが、販売価格は依然として高止まりの状態であり、買い控えによる需要減退により経営が圧迫されている。【ガソリンスタンド】 お客様の量への関心が無くなってきているところに、すべての物価が上昇して、量替えが実行できない家庭が多い。例年、春になったら仕事が増えるが、今年はコロナに加えて国際情勢も不安定だったので、余計に仕事が減ったと思う。【量小売業】 コロナの経済対策に助けられているのは大きい。国が出口戦略にシフトしていき、客単価ベースが上れば景気は戻るのかもしれないが、国際情勢による仕入れ単価の値上げなどで、利益の確保が難しい。【菓子小売業】
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 食材・消耗品・雑費・光熱費すべてが値上がりしている状況のなか、お店のメニューを値上げせざるを得ないことに頭を抱えながら、値上げを検討している。お客様は値上げ後もご来店していただけるのだろうか。不安だ。【食堂・レストラン】 材料価格の上昇が過去に例がないレベルで上がっており、売上の上昇分だけではカバーできなくなっている。抜本的な材料などの見直しが必要になってきているので、早めに行動したい。【普通洗濯業】 ゴールデンウィークが長かったこともあり、沢山の観光客が来島した。これから夏から秋と観光シーズンが続くため、今まで以上の観光客増加が予測される。しっかりと準備してチャンスを逃さないようにしていきたい。【自動車賃貸業】 コロナ禍に入ってから、飲酒量・滞在時間の減少、それに伴う客単価の減少が見取れる。原材料の高騰も歯止めがかからず、引き続き苦しい状況は続きそうだ。【その他専門料理店】 年末からコロナ感染者増加の影響で、2月から休業した。5月から通常に戻ったが、先が見えない。お客様もまだピリピリしているように感じる。早くコロナが収まることを願っている。【簡易宿所】

①【小売業】売上の動向

売上額の状況 ー前年同期比ー

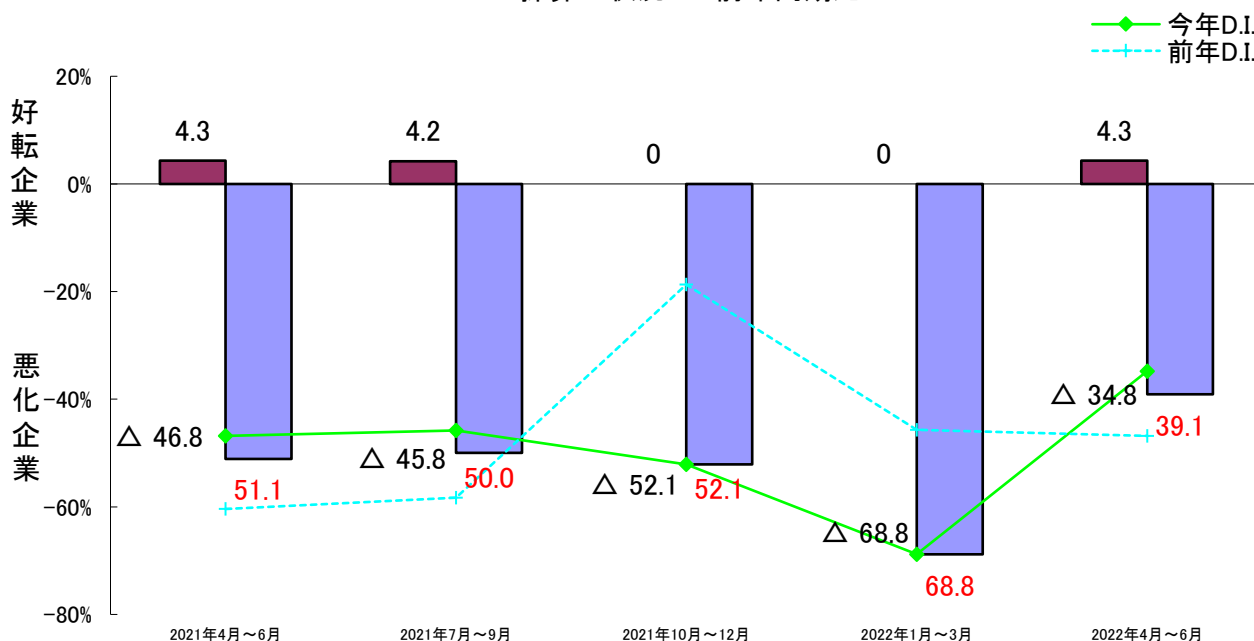


今期、売上が「増加した」と答えた企業は21.7%と、前期の10.4%から11.3ポイント増加した。また、「減少した」と答えた企業は45.7%と、前期の72.9%から27.2ポイント改善した。したがって、今期D・I値はΔ24.0と、前期のΔ62.5から38.5ポイント改善した。

「来期の見通し」では、増加すると予測した企業は21.7%、減少すると予測した企業は30.4%で、これにより来期のD・I値はΔ8.7と、今期のΔ24.0から15.3ポイントの改善を予測している。

②【小売業】採算の動向

採算の状況 ー前年同期比ー



今期、採算が「好転した」と答えた企業は4.3%と、前期の0%から4.3ポイント改善した。また、「悪化した」と答えた企業は39.1%と、前期の68.8%から29.7ポイント減少した。したがって、今期のD・I値はΔ34.8と、前期のΔ68.8から34.0ポイント改善した。

「来期の見通し」では、好転を予測した企業は2.2%、悪化を予測した企業は32.6%で、これにより来期のD・I値はΔ30.4と、今期のΔ34.8より4.4ポイントの改善を予測している。

③【小売業】新規設備投資の状況

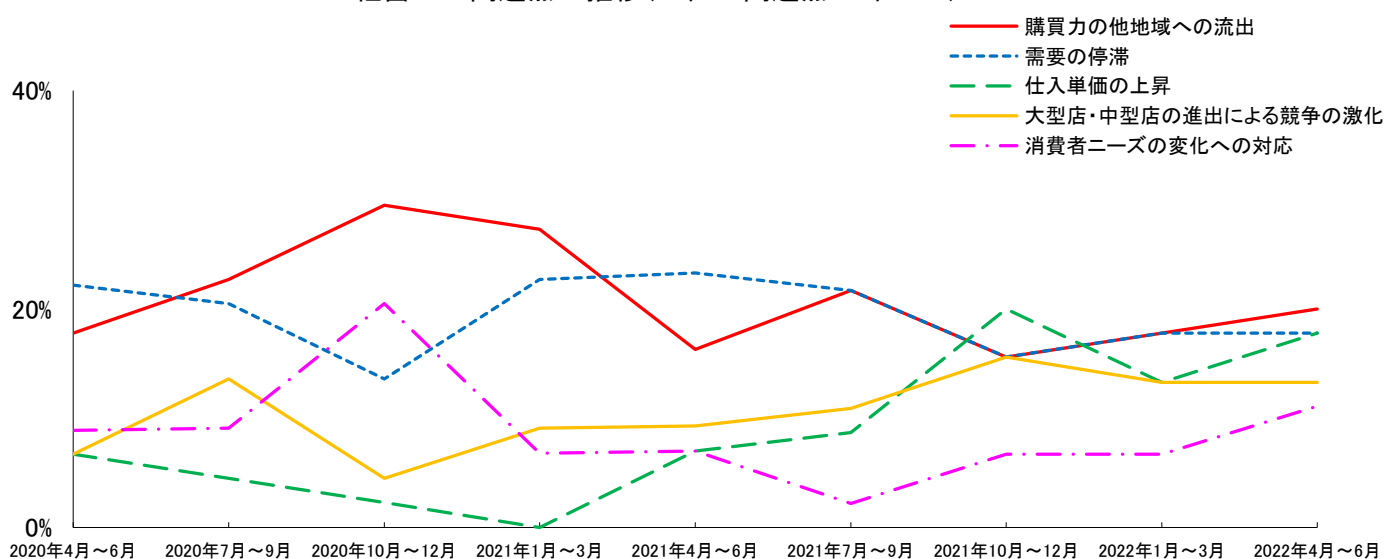
※投資内容は複数回答 (%)

項目 期	実施 して 計 画 る	実施 して い ない 計 画 い								
		土 地	店 舗	販 売 設 備	車 両 ・ 運 搬 具	付 帯 施 設	O A 機 器	福 利 厚 生 施 設	そ の 他	
今 期 (2022年4~6月)	12.8	33.3	33.3	16.7	0.0	50.0	33.3	0.0	0.0	87.2
来 期 (2022年7~9月)	8.7	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	91.3

今期設備投資を行った企業は12.8%で、前期設備投資を行った企業(8.3%)を上回った。来期は8.7%が設備投資を計画している。

④【小売業】経営上の問題点

経営上の問題点の推移(一位の問題点・上位5つ)



今期の経営上の問題点は、第1位は「購買力の他地域への流出」で20.0%、第2位は「需要の停滞」、「仕入単価の上昇」で共に17.8%、第4位は「大型店・中型店の進出による競争の激化」で13.3%、第5位は「消費者ニーズの変化への対応」であった。購買力の他地域への流出やコロナ禍での来店客減少による需要の停滞に加え、仕入れ価格の上昇が問題となっていることがうかがえる。

⑤【小売業】来期の見通し

売上(収入)額			採 算			資 金 繰 り			業 況		
2022年 1~3月期	4~6月期	7~9月期	2022年 1~3月期	4~6月期	7~9月期	2022年 1~3月期	4~6月期	7~9月期	2022年 1~3月期	4~6月期	7~9月期
△ 62.5	△ 24.0	△ 8.7	△ 68.8	△ 34.8	△ 30.4	△ 39.6	△ 25.5	△ 25.6	△ 61.7	△ 26.7	△ 26.1
傾向	↗	↗	傾向	↗	↗	傾向	↗	↘	傾向	↗	↗

(注) ↗ 増加・好転、→ 不変、↘ 減少・悪化を示す。

来期の見通しは、「売上(収入)額」、「採算」、「業況」の3項目で改善を示しているが、「資金繰り」は、悪化を示している。調査対象企業のコメントでは、当初のコロナの影響と比較すると売上は多少回復傾向にあるもののコストが増大し、利益の確保が難しくなっている。どうにかして採算のとれる経営方法を見つけたいといけないう声があった。

景況概要

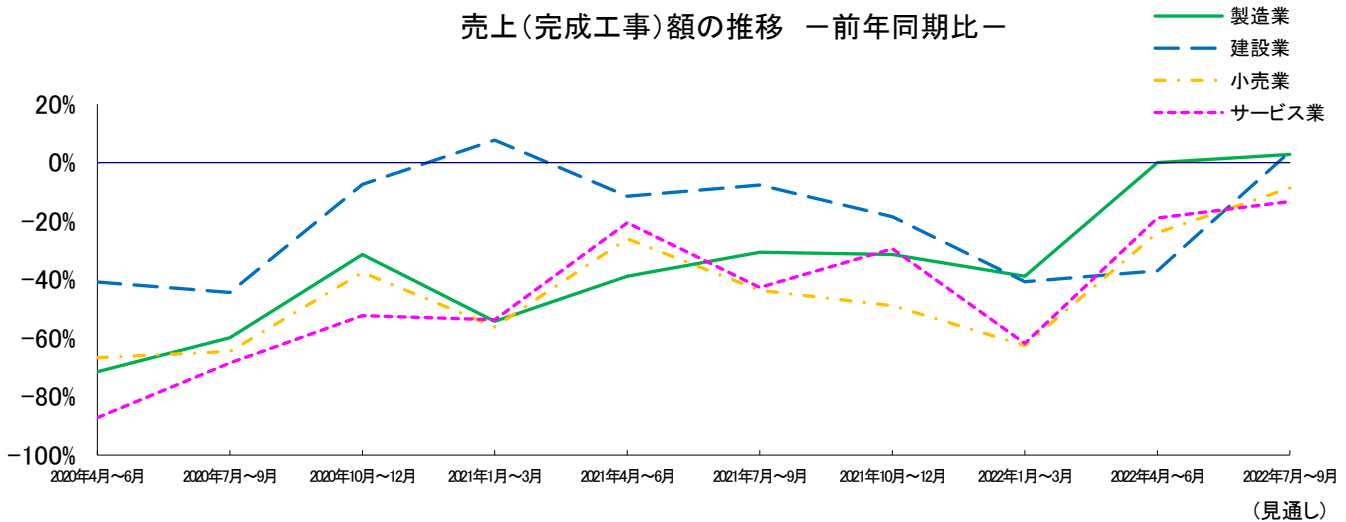
長崎県の全産業

【売上】

今期はすべての業種で改善を示した。「サービス業」(42.9ポイントの改善)、「製造業」(38.9ポイントの改善)、「小売業」(38.5ポイントの改善)、「建設業」(3.7ポイントの改善)

来期も「建設業」(40.7ポイント)、「小売業」(15.3ポイント)、「サービス業」(5.6ポイント)、「製造業」(2.8ポイント)すべての業種で改善する見通してある。

売上(完成工事)額の推移 -前年同期比-

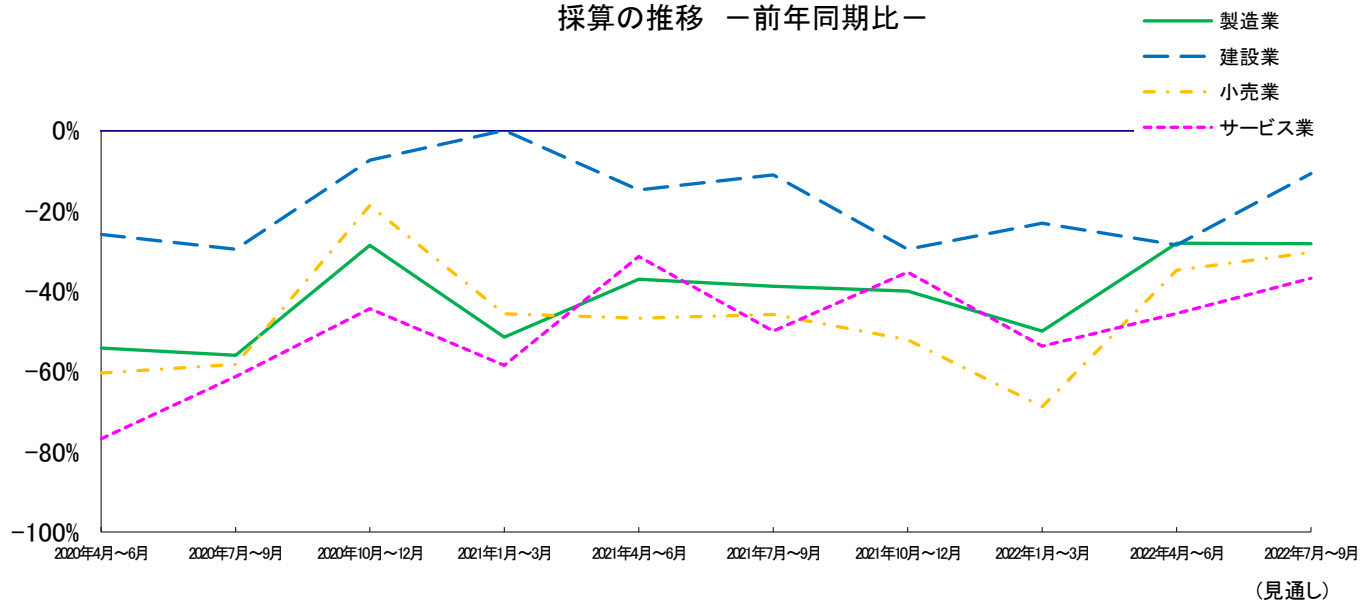


【採算】

今期、すべての業種で改善を示した。「小売業」(34.0ポイントの改善)、「製造業」(21.9ポイントの改善)、「サービス業」(8.1ポイントの改善)、「建設業」(5.4ポイントの改善)

来期の見通しで改善を示したのは、「建設業」(17.7ポイントの改善)、「サービス業」(8.8ポイントの改善)、小売業(4.4ポイントの改善)。悪化を示したのは、「製造業」(0.1ポイントの悪化)だった。

採算の推移 -前年同期比-



【注】本レポートの中で「D・I」とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。例えば各調査項目について増加(又は上昇、好転、長期化)と答えた企業の割合から、減少(又は低下、悪化、短期化)と答えた企業の割合を差し引いた値を示す表示です。マクロ指標等では表れにくい経営者マインドを敏感につかむ事ができます。